

分野名	地域・在宅看護論	科目名	地域・在宅看護概論
単位数	2	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	通年
担当教員	専任講師*、兼任講師 *実務経験のある教員		
目的	地域社会で生活しながら療養する対象者とその家族を知り、それを支える基本原理や制度における基礎的知識を身につける。		
目標	1. 人々が生活する地域社会とは何かについて理解を深める。 2. 地域・在宅看護の変遷と社会的背景について述べる。 3. 在宅看護の特徴・役割・機能を述べる。 4. 在宅療養者の生活を支える訪問看護の概要と展開方法を述べる。 5. 家族を含む在宅療養者の特徴を述べる。 6. 地域療養を支える法と制度について述べる。 8. 地域・在宅看護の動向と今後の発展について述べる。		
成績評価の方法と基準	客観試験80%・レポート20%		
使用テキスト・教材	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア MCメディカ出版 視聴覚教材		
履修にあたっての留意点	・授業に関連するお知らせはGoogle Classroomにも投稿するので必ず確認をする。 ・使用するテキストは必ず持参する。 ・授業中はノートをとる。 ・わからないことはまず自分で調べてみてから質問をする。 ・関連科目と結びつけながら復習をする。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	地域看護と在宅看護 地域・在宅看護の背景、地域看護の実践	講義	専任講師*
2.	在宅看護の基盤・役割・機能、在宅看護における倫理、地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関連携	講義	専任講師*
3.	地域・在宅看護の対象者 在宅看護の対象者とサービス提供者側の条件	講義	専任講師*
4.	在宅療養者と家族の支援 在宅療養の場における家族のとりえ方、在宅療養者の家族への看護	講義	専任講師*
5.	在宅療養を支える訪問看護 訪問看護の特徴、在宅ケアを支える訪問看護ステーション	講義	兼任講師
6.	在宅療養を支える訪問看護 事例：訪問看護ステーションの開設	講義	兼任講師
7.	地域療養を支える法・制度 社会資源の活用 地域と生活と健康 地域アセスメント(1)	講義・グループワーク	専任講師*
8.	地域と生活と健康 地域アセスメント(2)	グループワーク	専任講師*
9.	地域と生活と健康 地域アセスメント(3)	プレゼンテーション	専任講師*
10.	地域療養を支える法・制度 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源、医療保険制度、介護保険制度	講義	専任講師*
11.	地域療養を支える法・制度 高齢者施策、障害者に関する法律、難病法、子どもの在宅療養を支える制度と社会資源	講義	専任講師*
12.	地域療養を支える法・制度 生活保護制度	講義	専任講師*
13.	地域・在宅看護の動向と今後の発展 これからの在宅看護の発展に向けて(1)	講義・グループワーク	専任講師*
14.	地域・在宅看護の動向と今後の発展 これからの在宅看護の発展に向けて(2)	プレゼンテーション	専任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	地域・在宅看護論	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能を理解し、多職種連携・多機関連携に必要な知識を身につける。		
目標	1.地域包括ケアシステムについての概要と看護師の役割を述べる。 2.看護師の担うケースマネジメント/ケアマネジメントについて述べる。 3.地域包括ケアシステムにおける多職種連携・多機関連携の意味を述べる。 4.在宅看護における安全と健康危機管理について述べる。		
成績評価の方法と基準	客観試験100 %		
使用テキスト・教材	・ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア MCメディカ出版 ・視聴覚教材予定		
履修にあたっての留意点	・テキストで予習をしておく。 ・関連する科目の学習をしておく。 ・在宅医療や在宅看護に関する社会の動向に関心を持つ。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	はじめに 1.地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 1) 地域アセスメント	講義	兼任講師
2.	2) 地域包括ケアシステム 3) 療養の場の移行に伴う看護	講義、視聴覚教材予定	兼任講師
3.	4) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携	講義、視聴覚教材予定	兼任講師
4.	5) 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント(1)	講義、グループワーク	兼任講師
5.	5) 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント(2)	グループワーク発表	兼任講師
6.	2. 在宅看護における安全と健康危機管理 1) 在宅看護における危機管理 2) 日常生活における安全管理	講義	兼任講師
7.	3) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 おわりに	講義	兼任講師
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	地域・在宅看護論	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ
単位数	2	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	専任講師*、兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	在宅療養者と家族のQOLの維持・向上を考えた日常生活援助・医療ケアを実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。		
目標	1.在宅療養生活を支える基本技術と看護技術の概要を述べる。 2.病状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術(医療ケア)を説明する。 3.地域・在宅看護過程の一連が実施できる。		
成績評価の方法と基準	客観試験75%・レポート25%		
使用テキスト・教材	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア MCメディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 MCメディカ出版 視聴覚教材		
履修にあたっての留意点	・授業に関するお知らせはGoogle Classroomにも投稿するので必ず確認をする。 ・使用するテキストは必ず持参する。 ・授業中はノートをとる。 ・わからないことはまず自分で調べてみてから質問をする。 ・関連科目と結びつけながら復習をする。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	在宅療養を支える基本的な技術 コミュニケーション、ヘルスアセスメント、感染予防	講義	専任講師*
2.	日常生活を支える看護技術と病状等に応じた看護技術(医療ケア) 呼吸のフィジカルアセスメント、呼吸ケア	講義	専任講師*
3.	日常生活を支える看護技術と病状等に応じた看護技術(医療ケア) 食と排泄のアセスメントと援助の実際	講義	専任講師*
4.	病状等に応じた看護技術(医療ケア) 薬物療法におけるアセスメントと援助の実際、 外来がん治療、インスリン自己注射	講義	専任講師*
5.	在宅療養を支える基本的な技術 環境整備、生活リハビリテーション	講義・演習	兼任講師*
6.	日常生活を支える看護技術 肢位の保持と移動	講義・演習	兼任講師*
7.	病期に応じた在宅療養者への看護 終末期の在宅療養者と家族の看護	講義	兼任講師
8.	病状等に応じた看護技術(医療ケア) 疼痛管理	講義	兼任講師
9.	病状等に応じた看護技術(医療ケア) 排尿ケア、ストーマ管理	講義	兼任講師*
10.	病状等に応じた看護技術(医療ケア) 褥瘡管理、足病変のケア	講義	兼任講師*
11.	対象に応じた地域・在宅看護過程(1) 情報の整理・アセスメント	講義・グループワーク	専任講師*
12.	対象に応じた地域・在宅看護過程(2) 計画立案	講義・グループワーク	専任講師*
13.	対象に応じた地域・在宅看護過程(3) 初回訪問計画立案	講義・グループワーク	専任講師*
14.	対象に応じた地域・在宅看護過程(4) 実施・評価	ロールプレイ	専任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	地域・在宅看護論	科目名	継続看護論
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	地域包括ケアシステムにおける在宅療養移行支援の意義や医療機関の役割を理解し、入院時から退院後の在宅療養生活を見据えた患者・家族への支援を、院内外の多職種チームとの連携・協働のもとに提供するための知識を身につける。		
目標	1. 病院における地域包括ケアシステムの取り組みを述べる。 2. 住み慣れた地域で暮らすことの意味を知る。 3. 退院後の方向性について、患者・家族の意向を尊重した意思決定支援のあり方を理解する。 4. 病院内の多職種及び多様なチームとの連携協働の実際を知る。 5. 社会資源へのアクセスと利用、課題について知る。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験 100%		
使用テキスト・教材	藤澤まこと編著.ナースが行う入退院支援 患者・家族のその人らしく生きるを支えるために.株式会社メヂカルフレンド社,2021.		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	その人らしく生きるを支えるとは、入退院支援とは	講義	兼任講師*
2.	地域包括ケアシステムにおける入退院支援、入退院支援のスクリーニングとアセスメント	講義	兼任講師*
3.	事例) 外来からの入退院支援AYA世代がん患者とその家族の支援或いは入退院を繰り返す人への入退院支援 心不全終末期患者とその家族の支援	演習	兼任講師*
4.	患者・家族への意思決定支援	講義	兼任講師*
5.	事例) 自宅に帰ることが困難な人への入退院支援	演習	兼任講師*
6.	退院後の生活に向けた支援、社会資源の活用に関する支援	講義	兼任講師*
7.	事例) 経済的困難を抱えている人への入退院支援	演習	兼任講師*
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			